

国語科学習指導案

1 単元名 筆者の工夫をとらえて読み、それをいかしてとっておきの日本の文化を紹介しよう

『鳥獣戯画』を読む」「発見、日本の文化のみりよく」

2 単元の目標 ◎は重点指導項目

◎比喩や反復などの表現の工夫に気づくことができる。 [知識及び技能(1)ク]

◎目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

[思考力・判断力・表現力【書くこと】(1)ウ]

◎目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。

[思考力・判断力・表現力【読むこと】(1)ウ]

○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。

[知識・技能(3)オ]

○事実と意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる

[思考力・判断力・表現力【読むこと】(1)ア]

3 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・比喩や反復、文末などの表現の工夫に気づいている。 ・日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章と図表を結び付けるなどして表現の工夫など必要な情報を見つけたり、事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえながら、論の進め方の工夫やその効果について考えたりしている。 ・「書くこと」において、簡単に書いたり、詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたり、読みで見つけた工夫を使ったりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。 	<p>絵や文章から筆者の工夫を読み取ったり、表現を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって日本の文化のよさを伝える文章を書こうとしている。</p>

4 単元について

(1) 本単元で扱う教材と行う言語活動について

本単元は、学習指導要領の「C 読むこと」における指導事項である「ウ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすること」、「B 書くこと」における指導事項である「ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること」を受けて設定している複合単元である。そのため、『鳥獣戯画』を読む」と「発見、日本の文化のみりよく」の2つの教材を扱う。

『鳥獣戯画』を読む』は、十二世紀末に生み出された「鳥獣人物戯画」の一場面について、高畑勲氏がアニメーション監督の視点で感じたことが書かれた説明的文章である。体言止めや読み手への呼びかけなどの表現の工夫や、筆者自身の解釈と評価の繰り返して解説をし、絵の素晴らしさを伝えていく構成の工夫、1つの絵を2つに分けページの境を利用して提示し、変化を捉えやすくした絵の示し方の工夫など、多くの技法を活用している。そうすることで、読み手の共感を誘い説得力を高めながら鳥獣戯画のよさを説明している。そのため、児童はこの文章を読みとり、読み手を引き込んだり、印象付けたりとすばらしさを伝えるための多くの工夫を学ぶことができるだろう。

その学習を受けて、「発見！日本の文化のみりよく」の学習に取り組む。そこでは、5年生に向けて日本の文化を紹介する紹介文を書く。『鳥獣戯画』を読む』で見つけた筆者の工夫を取り入れながら、自分の感じたよさを読み手にわかりやすく効果的に伝えられるようにしたい。

児童はこれまで、5年生で読み手に自分の考えが伝わりやすくなるように、グラフや表など文章以外の資料を用いて文章を書く学習を行っており、6年生では、「時計の時間と心の時間」の学習において主張と事例の関係に着目して、自分の知識や経験と関連させながら読む活動を行っている。そのため、図や表を入れると意見を効果的に伝えられること、主張と事例を用いることで、自分の考えを読み手に理解しやすくなることを学んでいる。

そこで、本単元では、『鳥獣戯画』を読む』を読むことを通して、鳥獣戯画の魅力に共感するとともに、筆者の考えや思いの伝え方の工夫についても考えを深められるようにしたい。

そして、最終テーマは「5年生に向けて紹介する日本の文化のよさ」に設定する。今年6年生は修学旅行に行き、「日光東照宮」や「足尾銅山」など行く場所について事前に調べたり、実際に歴史的な文化や場所にふれたりすることで、歴史や日本の文化への関心が高まり、歴史の授業への興味が高まった。その経験を生かし、5年生に日本の文化のよさを伝えることで、さらに日本の文化についての知識を増やし、伝え方の工夫について考えながら文章に表すことができると考えた。

また、「時計の時間と心の時間」の学習では、身近な話題で事例を体験しながら進めていける教材であったため関心が高まり、今年自由研究として調べてきた児童もいた。「鳥獣戯画」という普段は触れることが少ない作品を扱う教材であるので、単元に入る前に鳥獣戯画について簡単に描かれている絵本を見たり、実際に墨で描いてみたりすることで、親しみをもって学習に取り組めるようにしていきたい。

(2) 学習を通して身につけさせたい力とその手立て

【身につけさせたい力について】

本教材は説明的文章の中でも論説文であり、筆者の思いが「評価」としてわかりやすく入っていたり、文末に工夫が多用されたりするため、筆者の思いや表現の工夫にも気付きやすい単元である。『鳥獣戯画』を読む』を読むことで、文章には書いた人の思いが表れることを理解し、表現の工夫、資料の活用の工夫、論の展開を捉える力を身に付けさせたい。そして学んだ工夫を活用して、文章を書く活動を行うことで、論の展開や表現を工夫することを楽しみ、自信をもって文章を書けるようになってほしい。

【手立てについて】

①筆者の伝え方の工夫をまとめた掲示物

これまでの学習で取り扱った、表現の工夫や論の展開の仕方をまとめた掲示物を作成し、掲示しておくことで、教材文で工夫を探す際の手掛かりとする。

②筆者の伝え方の工夫を見付けるための文章の焦点化

本文を三つに分けて短い文章に焦点をあてて表現の工夫を考える。そうすることで、技法に気付きや

すくし、必要な情報を抜き出せるようにする。また、その効果についても考えやすくなると思う。

本文の分け方としては、「1・2・3段落」「4・5・6段落」「7・8・9段落」とし、「1枚目の絵の解説と評価について」「1枚目と2枚目の関係、2枚目の絵の解説と評価について」「絵巻物・鳥獣戯画の素晴らしさについて」の内容で分けることとする。

論の展開については、段落ごとに名前をつけて構造を理解することで、評価と解説が繰り返されていることや、鳥獣戯画のウサギやカエルの表情や線の勢いなど、絵の細かいところに焦点をあてた解説から始まり、「絵巻物は国宝である」という大きく鳥獣戯画を捉えた話になっていくことがわかりやすくなるだろう。

③学習者同士が教え合いながら学びを進める活動

筆者の工夫を見付ける際に、論の展開や資料活用については全体で一緒に考えていくが、表現の工夫に関しては4人で構成される班で「1・2・3段落」「4・5・6段落」「7・8・9段落」の3つを分担し見付けていく作業を行う。個人で作業した後、同じ段落を選んだもの同士で集まり、見付けた表現の工夫を共有しあい、その効果について深く理解する時間をもつ。その後、自分の班にもどり、担当した段落にある工夫を共有する。そうすることで、全文を通して個人で作業を行うよりも、わかりやすい工夫のものに流されることなく、文章全体について全員が知り、その効果を考えることができるだろう。また、班のために一人一人が意欲的に活動に取り組み、教え合う中で筆者の伝え方の工夫について、より深く理解できると考える。そして、共有した後は、「書く」活動に向けて工夫の分類を行う。持ち寄った表現の工夫から、自分たちが日本の文化を紹介するときに使いやすくなるように表現の工夫の分類の仕方を話し合うことで、工夫の効果やよさについて新たな視点から考えることができると思う。

話し合いの内容を表現の工夫に限定した理由としては、文章全体で数多く活用されており、自分たちが文章を書く時にも取り入れやすいものである反面、活用の仕方によって効果が変わってきてしまうのが表現の工夫であるためである。4時間目で扱う論の展開や資料活用の工夫に関しては、7・8時間目にて「書く」活動の構成を考える際に振り返り、取り入れることができるようにする。

(3) 単元を支える言語活動

①朝や国語の活動を活用したミニ工夫探し活動

本校では朝の活動でぐんぐんタイムが設定されている。その時間に、体言止めや倒置法、読み手を引き込む言い方を使った文章と地の文章を比べて、その違いから表現の工夫を見付ける活動を行う。活動の中で、文末表現や文の入れ替えが、「書く」工夫になること、工夫を行うことで思いを強調することができることに気付かせたい。また、見付けた表現の工夫や読み手の感じ方の違いをまとめておくことで、『鳥獣戯画』をよむ』に入っている表現の工夫や筆者の思いを考えたときの手掛かりになるようにする。

②並行読書

「鳥獣戯画」とは、聞いたことがあっても児童にとっては親しみにくい題材である。そのため、「鳥獣戯画」に親しみがもてるように並行読書として、鳥獣戯画にまつわる本や図録を教室に置き、読み聞かせや紹介の時間を設ける。鳥獣戯画に対する知識を持ったうえで学習に入ること、教材文への興味が高まると考えられる。

また、第3次では、児童がそれぞれの興味をもった日本の文化について紹介する。その際、テーマや、紹介するための情報を見付けやすくしたりするために、並行読書を行わせる。本校は週2回（火、木）の朝学習において読書の時間を設けている。この学習の期間は日本の文化に関する本を特設コーナーを設けて、図書室や中央図書館から借りた本を収納し、児童が手に取りやすくする。また、第3次で

紹介する文章を作成する際には、それらの本を参考にすることで必要な情報を収集できるようにしたい。

5 指導計画 (全11時間)

次	時間	学習活動	○指導上の留意点 ◆評価
1	1	<ul style="list-style-type: none"> 本文を読み、単元のゴールを示し、単元の学習計画を作成する。 	<p>○「5年生にとっておきの日本文化を紹介する」ための文章を作るということを理解させた上で、児童の問いを基に学習計画を作成し、児童が何を学ぶべきかを感じられるようにする。</p> <p>◆学習の見通しをもって学習しようとしている (主体的に学習に取り組む態度)</p>
2	2	<ul style="list-style-type: none"> 作者の「絵」に対する評価を読み取る。 	<p>○挿絵に書き込みできるワークシートを使用し、筆者の着眼点を明確にできるようにする。</p> <p>○絵の解説に対応させて評価を見付けることで、関係性に気付かせる。</p> <p>◆文章と図表を結び付け、事実や感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、作者の「評価」を本文から読み取っている。 (思考・判断・表現)</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> 作者の「絵巻物」に対する評価を読み取る。 絵巻物としての鳥獣戯画の特徴や魅力を捉える。 段落ごとに名前を付け、本文の構成を理解する。 	<p>○挿絵に書き込みできるワークシートを使用し、筆者の着眼点が明確になるようにする。</p> <p>○絵の解説に対応させて評価を見付けることで、関係性に気付かせる。</p> <p>○学習してきたことをもとに、段落ごとの内容を要約し、タイトルをつけられるようにする</p> <p>◆文章と図表を結び付け、事実や感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、作者の「評価」を本文から読み取っている。 (思考・判断・表現)</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 高畑氏がどんな工夫を使って、わかりやすい文章にしているかを考える。 筆者の伝え方の工夫「論の展開の工夫」「資料活用の工夫」について 	<p>○資料活用の工夫は、教科書を活用し、実際に話の進行に沿ってみていくことで効果を考える。</p> <p>○論の展開は段落ごとにタイトルをつけた掲示物を参考に考えられるようにする。</p> <p>◆筆者の伝え方の工夫に気付いている。 (知識・技能)</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の伝え方の工夫「表現技法の工夫」を読み取る。 	<p>○班で「1～3段落」「4～6段落」「7～9段落」の3つを分担し、表現技法を見付け、その効果について考える。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ段落を選んだ人同士で、見つけた表現や工夫について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書のコピーかギガタブかを選び、自分に合ったワークシートで活動ができるようにする。 ○同じ段落を選んだ人同士で話すことで、理解を深める。 ◆筆者の伝え方の工夫に気付き、その効果について考えている。(知識・技能) 	
6 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけた筆者の伝え方の工夫やその効果について話し合う。 ・見つけた工夫を分類する。 ・自分が使いたい工夫について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○班でそれぞれ見つけてきた工夫や効果を共有し、自分たちが使いやすいように分類する。 ○使いたい工夫には理由をつけて考えさせる。 ◆効果について考えながら、筆者の伝え方の工夫を見付けている。(思考・判断・表現) 	
3	7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたいテーマを決め、情報を集める。 ・構成メモをたてる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ決め、情報集めの際には、5年生に何を伝えたいかを考えながら行わせる。 ○例文から簡単に書いたり詳しく書いたりしている場所を確認し、文章をかくときに意識できるようにする。 ○構成メモをたてる際、筆者の伝え方の工夫を振り返り、どこに入れるかを計画しておく。 ◆本が考えを広げることに気付いている。(知識・理解)
	9 10	<ul style="list-style-type: none"> ・2次で見つけた筆者の伝え方の工夫を使って、文章を書く。 ・文章を推敲し、工夫の使い方を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間見合う時間を設け、表現の工夫をどのように使っているかを確認しあう。 ◆目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思考・判断・表現)
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を読み合い、伝え方の工夫について話し合う。 ・学習全体の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見合う際に、「表現技法の工夫」、「論の展開の工夫」、「資料活用の工夫」の視点を意識するようになる。 ○できるようになったことを中心に振り返らせる。 ◆話し合いを通して、伝え方の工夫について考えている。(思考・判断・表現)

6 本時の目標と展開（11時間中の6時間目）

① 本時の目標

○効果について考えながら、筆者の伝え方の工夫を見付けている。

（思考力・判断力・表現力 【読むことC ウ】）

② 本時で目指す子どもの姿

A	B	C
根拠をもって効果について考えながら、筆者の伝え方の工夫を見付けている。	友達との話し合いを通して、効果について考えながら、筆者の伝え方の工夫を見付けている。	友達との話し合いの中で効果について知り、筆者の伝え方の工夫に気付いている。

③ 本時の展開

時配	学習活動 ・ 予想される児童の反応	○指導や支援の手立て ◇評価（評価方法）	教材・教具
7	①前時の学習の振り返りをし、本時の学習の見通しをもつ。	○単元の計画表や掲示物を指し示しながら振り返りを行うことで、既習事項を確認できるようにする。	・ 単元計画表
日本の文化を紹介するときに使いたい表現の工夫について話し合おう			
15	②前時に見つけた筆者の表現の工夫を共有し、自分たちが使いやすくなるような分類の仕方を班で話し合う。 ・「いったいこれはなんだろう」など読み手に呼びかけることで、一緒に鳥獣戯画を見てる気分になるよ。 ・私のところによびかける表現は使われてないね。 ・伝えたいことを伝えるときには、「～だ」とかっこいい言い方にしようかな。 ・呼びかけが最初に使われていて、主張を伝えるときには、「～だ」という工夫が使われているね。最初に使うといいものと最後に使うといいもので分類しようか。	○前時の活動記録を見て、自分の考えと比べながら意見を共有できるようにする。 ○見つけた工夫やその効果について考えを伝え合うときに、意見を聞くだけにならないように声をかける。 ○「どういうときに」や「どこで」を基準に、分類ができるよう視点を伝えて分類の仕方を児童同士で考えられるようにする。 ○話し合いの時にホワイトボードに、見付けてきた工夫をはりながら、まとめていく。 ◇筆者の伝え方の工夫を読み取り、その効果について考えている。（思考力・判断力・表現力 【読むことC ウ】）	ギガタブ 教科書のコピー 教科書 ワークシート モニター ホワイトボード

15	<p>③グループごとに、考えた分類の仕方を全体で紹介し、筆者の工夫や効果を共有する。</p> <p>・私たちのグループでは、「読者をひきつけるとき」と「主張を伝えるとき」「臨場感を出したとき」に分類しました。私たちが使うときに、読者をひきつける場面と主張を伝える場面で、差をだして伝わりやすい文章にしたいと思ったからです。</p>	<p>○グループで分けた分類の仕方を理由とともに紹介する。</p> <p>○発表する際は、ホワイトボードで話す内容を明確に示し、共有する。</p> <p>○聞いている人は、自分はどう思うかを考えながら聞くよう声をかける。</p>	ホワイトボード
8	④振り返りをする。	<p>○次回自分が使いたいと思う工夫を選び、その理由をワークシートに記入する。</p> <p>○テーマが決まっている児童に対しては、紹介するものにあった工夫を選べるように声をかける。</p> <p>○今日の授業で学んだことを書き、今日の学習の自己評価を行う。</p>	振り返りシート